

つるがしま里山サポートクラブ 活動報告書 (令和5年度) 2023年

9	月	日	曜日	開始	終了	場所	会員参加数
	12	23	土	8:30	1300	五味ヶ谷市民の森	19名
活動名称						門松教室	報告者：吉井 優

1、活動目的

私達が市民管理協定で整備している五味ヶ谷市民の森は、竹林と雑木林からなり、近隣住民の散策路として親しまれています。この森を子供たちに積極的にアピールし、楽しさを通して森の大切さを理解してもらいます。市民の森の竹林で発生する竹を有効利用する目的で、門松教室を実施しています。家族で協力して門松を作ることで、家族の絆が深まり、地域の方々とのおふれあいもできます。杉下地域支え合い協議会、広域親子劇場比企北いるまに協力していただき、地域との連携を図ります。

2、活動内容ほか

コロナ騒動が終わりましたが、準備・片付けが楽なこともあり、五味ヶ谷市民の森を会場に開催しました。いつもどおり、寒さ対策として、ドラム缶で竹を燃やしました。今年一番の寒波に見舞われたためか、暖をとる貴重な熱源として好評でした。9時に受付開始し、受付をすました参加者に手伝ってもらい、会場の準備を行いました。9時半からイベントの説明、門松の作り方を説明しました。9時40分から夢基金の進化要請に応え申請した縄縷い体験を行いました。10時ごろから門松づくり開始です。竹選びから始めました。3本の竹をそれぞれ好みの長さに切断し、15cmの畳表で包み、縄で結びます。これを左右に1組ずつ作ります。これに松と梅と南天と紙飾りをさして門松が完成します。11時半過ぎにほぼ全員の門松が完成し、集合写真を撮って後、全員で後片付けをして、12時にはイベント終了となりました。

3、評価：

45組の募集でしたが、例年12組のキャンセルがでたため、52組受けました。五味ヶ谷の里山体験会から、インフルエンザによるキャンセルが増加しており、今回も10組程度のキャンセルを想定しました。結果4組のキャンセルが出ましたが、過去最高の48組で開催となり、子供80名、大人63名の体験となりました。竹おき台が42組しか準備できず、すぐ作業ができず、順番待ちの家族が発生しましたが、参加者間で協力してくれたようで、不満が出ることなく、皆さん笑顔でイベントを終了できました。大勢の方が参加してくれましたが、混乱することなく、イベント終了後、参加者が満足して帰宅してくれて、スタッフも大満足です。

4、課題

野外活動のため、暖をとるため、ドラム缶で、竹と枯れ木を燃やしましたが、煙が隣接する瀧嶋さん宅まで流れ、ヒヤリとしました。来年は、枯れ竹だけ燃やすよう注意します。

昨年に続き市販のわら縄から畳表のイグサをほぐして作ったイグサ縄を使いました。切断面からイグサがほぐれ、なわを結ぶのに難易度が増します。スタッフの意見で使いづらいとの意見が多く、来年は、わら縄に戻します。予想以上の参加者のため、竹おき台が不足したため、1月の木工教室で20組追加作成の予定です。門松教室は、指導員とスタッフ謝礼が多く支給されるイベントです。より多くの会員に参加してもらいたいです。

<里山参加会員>

木部、田中、牛島、小沼、柳川、小澤邦、松井、風祭、柏木、杉山
吉井、上見、小澤弘、小嶋、佐野英、阿部 石川、村上、石黒

<活動写真>

